

血管年齢・動脈硬化の診断

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



血圧やコレステロールを下げる薬を飲まれている方も多いと思います。これらの薬を飲むことで動脈硬化の進行を抑えることが期待されますが、動脈硬化は目に見えるものではなく、自分では判断しにくいものです。

動脈硬化は年をとれば誰にでも起こりうる、「血管の老化現象」です。加齢とともに少しずつ動脈硬化は進行していきませんが、その進行速度を速めてしまう危険因子として脂質異常症、糖尿病、高血圧、喫煙などがあります。動脈硬化は進行しても自覚症状はありませんが、放置しているうちに心筋梗塞や脳卒中を発症する危険が高まるため注意が必要です。

自分自身の血管年齢や動脈硬化の程度を知る検査として脈波伝搬速度測定（PWV）と呼ばれる検査があります。この検査では両腕と両足首の血圧・脈を同時測定します。動脈硬化があると脈が速く伝わり、動脈硬化がないと脈は遅く伝わります。そこから自分の血管年齢や動脈の硬さ、さらに足の動脈に十分な血液が供給されているかを知ることができます。

また頸動脈エコー検査も有用な検査です。この検査は脳につながる重要な頸動脈の壁の厚みを測定し、動脈硬化の進行の程度を評価できますし、プラークと呼ばれる動脈硬化の固まりが血管の中に付着していないかを確認することができます。脳梗塞につながる危険な動脈硬化がないか検査することができます。

これらの検査は苦痛を伴わず、比較的簡単にできますので、自分の血管の状態を知る第一歩として有効です。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000